

全中社研会報

会長に再任されて



全国中学校社会科教育研究会
会長 石上 和宏
(東京都板橋区立志村第二中学校長)

平成二十七年七月四日、岡山県岡山市において全国中学校社会科教育研究会第九十二回理事会在開催され、平成二十六年年度に続き、会長としてご承認いただき、本会の会則を確認させていただきます。本会の目的は次の三点です。第一に、中学校社会科教育の研究を推進し、充実発展を図ること。第二に、会員相互の情報交換を図ること。第三に、会員の研究成果の交流を図ることです。私は中学校社会科では生徒に社会を見る(読み取る)目を育てることが大事だと考えています。普段、何げなく見ている背後にあるものを含めて見えるようにすることです。別の言葉でいえば、見慣れた風景にも意味があることに気付かせることです。人が自分の住んでいる土地に働きかけてつくってきたものが地域の特色ではないでしょうか。地理であれば、扇状地では水系が深いので根が深くなる桑を植えてきました。かつて山奥の集落でニワトリを飼わな

かったのは平家の落人の集落であったからであるという歴史を踏まえた見方です。公民でいうと、都市での建物の高さ規制や伝統的な観光地での建物の色の規制なども気付かせることができます。生徒に地理、歴史、公民を学ぶことで自分の住んでいる地域の社会的現象を深く理解させ、その中から意味を見出すことが出来るようにすることが大切だと思います。よりどころとなるのは学習指導要領であり、その趣旨を理解し、具現化を図り、生徒の公民的資質の基礎を養う社会科教員の一助と本会がなることができると努力してまいります。

さて、私は昨年度、会長就任時に二点についてお約束をしました。一つは、未加盟県への働きかけです。そこで、山梨県、長野県、二県に訪問し、本会の活動についてご説明するとともに、加盟を働きかけました。今回は加盟していただけないでしたが、今後も生徒の学びを深めるために情報交換などを行っていくことにしました。

第二に、発信する全中社研を目指すことをお約束しました。そこで、各都道府県市に依頼し、学習指導要領実施上の成果と課題を簡単に調査し、その結果を教科調査官にご提出し、今後の社会科教育の充実に生かしていただくことにしました。さらに、ホームページの充実を図ってきたところですが、十分に改善するとはできませんでした。私は今年度再任されるにあたり、真に全国組織となるように組織の充実を図ること、さらに発信する全中社研、交流する全中社研を目指して活動していく所存です。

以上、これらの施策はどれも各研究会の皆様のご理解とご協力がないと実現できません。各学校の生徒が一人残らず社会科が好きだと言ってくれるように、さらに一人一人が自立し、社会参画の意識をもち、社会の発展に貢献できる人間となることができるように本会の運営を行ってまいります。ぜひ、全国の皆様のお力添えをよろしく願います。

全国中学校社会科教育研究会
全中社研 (略称全中社研)
http://www.zenchusya.com
発行者 石上和宏
編集者 市村扶二夫
八王子市立第四中学校
TEL 042-622-7227

第48回全国中学校社会科教育研究大会

岐阜大会

大会主題

主体的に社会の形成に参画する力を
育てる社会科学習

期日 平成27年11月5日(木)・6日(金)

全中社研副会長・大会実行委員長
(岐阜県各務原市立鷺沼中学校校長)
寺井 厚 人



岐阜県で初めての全国大会を開催させていただくことになりました。平成十年に全国中学校社会科教育研究会に加盟して以来の願いが実現したことは誠に大きな喜びです。

社会の進歩と共に、教育においても「道徳教育の教科化」をはじめ様々な改革が進められています。また、公職選挙法が改正され十八

歳以上に選挙権が与えられるなど社会制度も変革してきます。誰も経験したことのない時代をこれからの生徒達は生き抜いていきます。そのための力を社会科教育を通して生徒達に培いたいと願っています。

今回の岐阜大会では、『主体的に社会の形成に参

画する力を育てる社会科学習』を主題として、実践の成果を発表します。

岐阜県中学校社会科研究会では、昭和三十三年の発足より「自主性を育て、思考と認識を深める社会科指導」を主題として研究を進めてきました。授業では、生徒自身の疑問を生かした課題設定、資料をもとに考え、話し合い練り合うこと

を育てることが出来たと考えています。その一方で、先に述べた変革の時代、誰も経験したことのない社会でより良く生きていくために、生徒一人一人に「社会の形成に参画する力」までを見据えて社会科教育を展望する必要があると考えました。

そこで「主体的に社会の形成に参画する力」を『獲得した事実に関する認識に基づき、価値に関する認識を形成していくことを通して、公共的な事柄に自ら取り組もうとする資質や能力』とし、これまでの研究を継続・発展させる中で授業改善に取り組んでいます。事実に関する認識と価値に関する認識という二つの認識をそれぞれ獲得していく学習活動をご覧いただき、ご指導・ご意見を頂戴したいと願っております。

大会の開催は、地・歴・公三分野の公開授業を含め、一つの会場に六校の生徒を集め発表いたします。授業会場は隣り合う三つの部屋となつています。全国の先生方に三分野の公開授業と生徒の姿を心ゆくまで見ていただきたいと願っております。「チーム岐阜」を合言葉に、岐阜県中学校社会科部全員の力を合わせて岐阜大会を盛り上げます。よろしく願います。

第48回全中社研岐阜大会のご案内

岐阜大会事務局長

岐阜市立加納中学校 佐々木 喜秀

岐阜大会実行委員会では、第四十八回全国中学校社会科教育研究大会・岐阜大会を清流の国「岐阜県」で開催いたします。

二日目(分科会)

岐阜都ホテル
ボールルーム

三 内容

◇一日目

①開会式

②基調提案
七野 武稔

(岐中社副会長)

児山 耕生

(授業研究委員長)

③記念講演

講師：柘植 康英 氏

(東海旅客鉄道株式会社代表取締役社長)

演題「進化する日本の高速鉄道―東海道新幹線からリニア中央新幹線へ」

◇二日目

《地理的分野》

①公開授業Ⅰ

「中部地方」

授業者：前田 佳洋

(岐阜大学附属中学校)

②公開授業Ⅱ

「オセアニア州」

授業者：車戸 良成

(岐阜市立東長良中学校)

③分野別提案

今西 祥幾 (分野長)

(岐阜市立長森中学校)

④研究発表

東京都：中野 英水

(板橋区立赤塚第二中学校)

⑤指導助言

須本 良夫 氏

(岐阜大学教育学部教授)

⑥講演

濱野 清 氏

(文部科学省教科調査官)

《歴史的的分野》

①公開授業Ⅰ

「武士の台頭と鎌倉幕府」

授業者：内田 武志

(岐阜市立陽南中学校)

②公開授業Ⅱ

「産業の発達と幕府政治の動き」

授業者：内海 照幸

(岐阜市立長良中学校)

③分野別提案

加藤 高祥 (分野長)

(恵那市立恵那西中学校)

④研究発表

岡山市：水野 直樹

(岡山市立興除中学校)

⑤指導助言

早川 万年 氏

(岐阜大学教育学部教授)

⑥講演

中尾 敏朗 氏

(文部科学省視学官)

《公民的分野》

①公開授業Ⅰ

「地方の政治と自治」

授業者：梅村 亮介

(岐阜市立加納中学校)

②公開授業Ⅱ

「生産と労働」

授業者：奥田 恵太

(岐阜市立青山中学校)

③分野別提案

松原 元樹 (分野長)

(中津川市立坂本中学校)

④研究発表

島根県：岡田 昭彦

(島根大学教育学部附属中学校)

⑤指導助言

大杉 昭英 氏

(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長)

⑥講演

樋口 雅夫 氏

(文部科学省教科調査官)

岐阜大会事務局
〒500-0182

岐阜市加納舟田町九

岐阜市立加納中学校

(事務局長) 佐々木喜秀

TEL 058-271-2357

FAX 058-271-2067

【岐阜大会申し込みHP】

http://www.kntco.jp/

ec/2015/zenchusya/

最終案内と申込書は全中

社研ホームページよりダ

ウンロードできます。

第92回 全中社研理事会報告

全中社研事務局長

小平市立小平第五中学校長 高山 知機

第九十二回理事会は、七月四日(土)、岡山県岡山市の「ピュアリティまきび」で開催されました。開会の言葉に続き、石上全中社研会長、堀井岡山県会長、前年度研究大会開催の滋賀県・七里事務局長、今年度研究大会開催の寺井岐阜県会長より、ごあいさつをいただきました。

事務局より第九十一回理事会報告の後、議事に入り、平成二十六年事業報告、平成二十六年決算報告の承認後、平成二十七年の組織承認により、石上和会会長の再任が承認されました。就任のあいさつ及び新役員の紹介の後、平成

二十七年の事業計画・予算案が提案され、承認されました。その後、本年度岐阜大会の案内と研究の進捗状況報告、次に岡山大会の要綱が提案され、予定していた議題がすべて終了しました。最後に北崎広島県会長より、平成二十七年中国ロック研究大会についての案内、全国大会の開催地について、平成四十一年度以降の開催地については、平成二十九年島根大会時に決定する旨確認がされ、今後候補地を募り、引き続き討議することとし、理事会を修了しました。

平成27年度 全中社研新役員

相談役	東京 齋藤 博志	〃 東海北陸	関口 大介
会長	東京 石上 和宏	〃 近畿	笹 信隆
副会長	北海道 吉吞 正美	〃 大阪市	田積 直子
〃	東北 鹿野 智	〃 中国	北崎 俊司
〃	東北 川村 英一	〃 四国	蓮井 善視
〃	関甲信 磯田 洋	〃 九州	高橋 祐二
〃	東京 小林 誠	〃 常任理事	東京 戸部 範一
〃	東海北陸 寺井 厚人	〃	東京 高岡 麻美

東京	伊藤 聡保	奈良	土田 博敏
栃木	小堀 茂雄	大阪	太田 伸治
群馬	吉江 剛	大阪市	田積 直子
茨城	磯田 洋	兵庫	中阪 守
千葉	常住 信夫	鳥取	田村 穰
埼玉	栗田 亨	島根	長岡 素巳
神奈川	市川 洋	岡山	堀井 博司
横浜	法村 盛郎	広島	北崎 俊司
北海道	吉谷 正美	山口	齋藤 教津
青森	岩田 靖	徳島	桑田 郁男
秋田	石郷岡仁司	香川	蓮井 善規
岩手	小向 和秀	愛媛	二宮 和広
山形	鹿野 智	高知	川崎 剛
宮城	川村 英一	福岡	松下 誠
福島	大橋 誠寿	佐賀	下川 孝廣
栃木	小堀 茂雄	長崎	松野 廣文
群馬	吉江 剛	大分	岩尾 亮
茨城	磯田 洋	熊本	荻原 陸雄
千葉	常住 信夫	宮崎	高橋 祐二
東京	高岡 麻美	鹿児島	永山 修一
埼玉	栗田 亨	沖縄	斉藤美喜雄
神奈川	市川 洋	東京	井上 雅子
横浜	法村 盛郎	東京	桐野 和之
新潟	松井 淳	東京	高山 知機
富山	北岡 聡	東京	竹原 眞
石川	越中 修	東京	水井 雅史
福井	廣瀬 介治	東京	吉川 修央
岐阜	寺井 厚人	東京	木村 雅英
静岡	松下 哲也	東京	市川扶二夫
愛知	土井 謙次	東京	大瀧 訓久
名古屋	関口 大介	東京	佐藤 敏数
三重	市川 則文	東京	中野 英水
和歌山	鈴木 達也	東京	高田 孝雄
滋賀	中出 幸宏	東京	藤田 琢治
京都市	坪井 聡		

ご退職

ご退職の方も含みます。

副会長	北海道	吉谷 正美	新潟	安中 長市
〃	栃木	富田 恒男	岐阜	小野木 卓
〃	栃木	設楽 富男	三重	樋谷 英史
〃	名古屋	関口 大介	和歌山	鈴木 達也
〃	大阪市	田積 直子	滋賀	中出 幸宏
〃	岡山	藤島 文雄	京都	細辻 吉弘
〃	茨城	坏 哲男	兵庫	常森 一裕
〃	東京	戸部 範一	山口	松岡 孝彦
〃	埼玉	栗田 亨	徳島	桑田 郁男
〃	群馬	山田 豊和	香川	福崎 彰彦
〃			熊本	荻原 陸雄

夏季セミナーに参加して

東京都足立区立花畑北中学校 関 眞規子

全中社研・関プロ中社研 共催の夏季セミナーは、平成27年8月5日(水)東京都文京区立茗台中学校で行われました。今回は、岩手県大船渡市の戸田公明市長を講師にお招きして、「大船渡市 大震災からの復興の現状と課題」という演題で講演をいただきました。

戸田市長は、二〇一〇年12月3日に市長に就任されましたが、その3か月後に東日本大震災・津波が発生し、これまで市長として強いリーダーシップを発揮し、

大きな課題である大震災からの復興をはじめ、市政に尽力されてこられました。今回は、「市長としての初動」【大震災から4年5カ月】「被災地域のまちづくり」【児童・生徒の防災教育】「復興の成否」【まち・ひと・しごと創生戦略につなげる】の6項目を中心にお話をいただきました。最初の項目の「市長としての初動」では、震災後直ちに災害対策本部を設置し、米英国際緊急救助隊の受入の即決・応急仮設住宅建設戸

数の算定指示や首相に住宅の高台移転を進言するなど迅速果敢に、適切で多様な緊急・応急対応が行われ、震災2週間後の3月26日には災害復興局を設置し、「家は流されない！人は死なない！」を基本にした的確な復興計画が策定されていったことが良くわかりました。次の【大震災から4年5カ月】では、1年目は仮設住宅の建設を中心に住民の生活の落ち着きを取り戻すことに全力を注ぎ、2年目には被災企業を80%以上事業再開させ、魚市場への水揚げ高も震災前まで回復し、3・4年目には復興型工事を多数着工し、現在では復興事業の3割強が完了し7割弱が実施中で最大の課題の住宅再建の目処がついたということがわかりました。【被災地域のまちづくり】では、大震災時の津波浸水域を災害危険区域として指定し建築規制をかけるなど、条例化による津波被害の歯止めを行い、市中心部では、土地区画整理や津波復興拠点整備などの方針が決定し動き出していること、市中心部以外では住宅移転跡地買収による市有地と民有地が混在している状況であり、それぞれの課題解決に向けて努力されていることがわかりました。

【児童・生徒の防災教育】では、小中9年間を見通した防災教育を推進し、「防災教育の手引き」の作成や「防災マップづくり」の取組だけでなく、防災教育の成果と課題・改善策を洗い出し継続的な実践が展開できるように「活用実践事例集」を発行し、防災意識を一層高め、多様な自然災害への対応ができるように取り組んでいることがわかりました。特に、「防災マップづくり」の取組は、参加した先生方の各学校で、地理的分野や公民的分野の授業づくりに大いに参考になるものでした。【復興の成否】については、現在は復興需要で経済が活況しているが、数年で復興需要は収束してしまうので、復興需要から民間経済パワーへのパトナッチが重要になるということでした。取組(パトナ)については、乾燥フルーツの製造・販売や洋菓子店の開業などの起業・創業・事業拡大への支援、東北未来創造イニシアティブと連携した未来創造塾による人材育成、岩手大学との連携、大規模太陽光発電所の建設や医療・介護分野に

おけるICT連携システムの構築による環境未来都市への取組、郷土食の掘り起し・体験型観光・周遊バスルート・公式HPの拡充などの観光ビジョンの具現化についてお話しいただきました。6項目目の「まち・ひと・しごと創生戦略につなげる」では、二〇六〇年における人口ビジョンを作成し、二〇六〇年頃に大船渡市の人口減少に歯止めをかけるために、安定した雇用の創出や地方への新しい人の流れをつくること、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるために今までは違う新しい発想で取組内容を決めていかなくてはならないとのことでした。最後に、子どもたちの明るい未来や人生が豊かになるような社会づくりや学校教育の大切さをお話しただけでした。あらためて、東日本大震災の甚大な被害とこれまでの4年5カ月の復興への取り組みについて直接戸田市長様からお話をお聞きする機会をいただき、心より感謝申し上げます。東日本大震災・津波でお亡くなりになった方々のご冥福と被災地のさらなる復興を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

今号は、七月に岡山市で行われた理事会で再任された石上和宏会長を中心とする新役員のご紹介と十一月に岐阜県で開催される全国大会のご案内を中心に構成を致しました。

夏季セミナーでご講演を頂いた岩手県大船渡市の戸田公明市長のプロフィールを拝見しますと、戸田市長は、大船渡市内の小中学校を卒業し、県立盛岡第一高等学校に進学、卒業後は東北大学の工学部に進む地元東北一筋の方でした。しかし、大学卒業後は日本を代表する大手建設会社に就職し、入社十数年後には社命でアメリカのハーバード大学に留学します。留学後は、上海や北京、香港で営業所長や駐在員事務所長を歴任しています。建設会社退社後は、生まれ故郷の大船渡市に戻り、地元で医療や介護を提供している医療法人の理事になつていきます。その後、地元有志に推され、平成22

年12月に大船渡市長に当選します。そして、就任3カ月後の平成23年3月11日に東日本大震災に見舞われました。今回の講演を聞いていますと、戸田市長の迅速果敢な緊急・復興計画の策定などは、地元東北愛と大手民間企業で鍛えられた手腕を強く感じました。復興の最前線に立つには最適の人が市長であったように思います。戸田市長は、学校を核として町を復興させるとおっしゃっていました。私たち学校現場では、社会科の授業を通して生徒たちに世の中を理解し、創造していく力を育成し、困難な場面に立ち向かい、未来を切り拓いていく「生きる力」をしっかりと育ませなくてははいけないと思います。

最後になりましたが、ご多用の中、原稿を頂きました皆様へ改めて感謝を申し上げます。

次号は、岐阜大会の報告を中心に編集致します。広報部次長 大瀧 訓久

第49回全国中学校社会科教育研究大会 岡山大会

○大会主題 「生きる力を培い、未来を創る社会科学習
 ～自らの学びを見つめる学習活動～」(案)

○期 日 平成28年11月17日(木)・18日(金)

○開催地 岡山県 岡山市

○会場 第一日目 岡山コンベンションセンター
 第二日目 ビュアリテイまきび

金融リテラシー(お金の知識・判断力)が身につく、無償教材のご案内

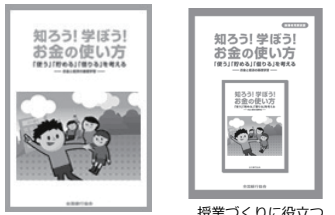
**大好きなアーティストから考える
あなたと銀行のかかわり**



- 【テーマ】
- ・〈為替(振込)〉〈預金〉のはなし
 - ・〈貸出〉〈資金仲介〉のはなし
 - ・〈住宅ローン〉〈外国為替〉〈金融〉のはなし
 - ・社会と銀行のかかわり

自分の買い物や銀行や経済とどのように関わっているのか……中学生にとってまだ馴染みのない「金融」について、身近な例を用いてわかりやすく解説。金融や銀行のしくみについて理解を深めることができます。

**知ろう!学ぼう!
お金の使い方**
「使う」「貯める」「借る」を考える



- 【テーマ】
- ・「お金を使う」とは?
 - ・お金を借りて使い、長期間でお金を返す
 - ・カードだけで買い物ができる
 - ・お金の流れをつくる
 - ・「貯める」と「借る」どちらがよいか?

中学生にとって身近でイメージしやすい「家計」にスポットをあて、収支のバランス、ローンやクレジットのしくみ、生活設計の選択・判断など、これからの人生で「お金を使う」とこと上手に付き合うための知識を身に付けることができます。

**生活設計・
マネープランゲーム**



- ・アクティブ・ラーニング型の授業用教材で、生活に必要な資金のことを楽しみながら学べます。
- ・グループでの話し合い、結果の発表、他のグループとの結果共有による新たな気づきなど、生徒の能動的な活動を引き出します。

人生には様々な選択があることに気づくと同時に、計画性を持って生活していくことの大切さを体感するカードゲームです。4～5人の班で行うグループワークで、生徒が主体的に取り組むことができます。

詳しくは、WEBサイト「教育関係者向けページ」をご参照ください。
 また、WEBサイトからお申込みもできます。⇒ <http://www.zenginkyo.or.jp/education/>

一般社団法人 全国銀行協会 お問い合わせは、03-5252-3720 [企画部金融リテラシー推進室] まで。